

2万人出向の道へらく子会社設立



1988.10.24
No.2912

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

JR東日本は、二万人出向へ向けた突破口「子会社化」設立を商業新聞紙上で明らかにした。

それによると、今年度内に一〇〇%出資の子会社「JR東日本レストラン」を設立し、「東京駅八重州口の開店を皮切りに主要駅に百店舗のレストランチェーンを展開し、いずれは市街地にも出店したい」とするものであり、「レストラン」は和・洋・中華の複合で数十人で展開するとしている。

つまりは、外に向かつてはいかにも「経営改善」しているかのように「うどんや」「そばや」を作り、その実、組合破壊のために国労や勤労千葉を強制配転し、職場から切りはなすという「経営方針（労務対策）」では、将来展望がまったくない。だから、こうした子会社設立に踏み切ったといえる。

経産新聞
JR東日本、年度内にも子会社
レストラン網展開
まず東京駅に

子会社「外食産業」への本格進出を報じる商業新聞

全員で反撃を

営業業協議会云 代表者云議開催

勤労千葉営業協議会は、十月十三日、各地区協議会役員に参加の下、当面する今秋の闘い、全組合員のスト決起にむけ、第一回代表者会議を開催した。

会議は本部滝口組織部長のあいさつ、本部営業協議会からの方針提起を受け、その後、創意あふれる職場の闘いの報告・不当な攻撃に対する怒りの発言などの討論の末、次の取り組みが決定された。

一、当局の「京葉線モデル線化」、勤労千葉排除、大合理化を許さず、一〇〇%のスト体制を構築する。

同時に、この子会社設立は、西日本のふたつの子会社化に続く、東日本二万人出向に向けた攻撃であり、断じて容認できない。そもそも、JRの出向とは労働組合絶滅を唯一の目的としており、その内容は首切りにそのものに他ならない。

国労西日本本部の裏切りによって締結された出向協定によれば、なんと出向には「本人の同意」など一言もふれられず、「会社の都合、思惑で一方的に命令し、復職も会社の勝手で行う」とするものである。

その結果どうなってしまったのか。直営店の国労組合員が子会社へと出向され、「グリーン産業」等をはじめとする「新事業」に第二人活へと追いやられてしまったではないか。まさしく永久追放を目的としているのである。

しかし、勤労西日本の仲間がストライキを闘うことによって出向・新事業強制配転を阻止した。闘えば勝てる。それをさし示したのである。

「レストラン設立」で数千名の首切り出向をどうして許せるだろうか。
われわれは、第十五回定期大会で強制出向・配転にはストライキで闘うと決定し、一〇〇%でスト権を確立した。
子会社設立粉碎・十二月京葉線ダイヤ改訂新たな合理化粉碎へむけて、全職場・全組合員の万全のスト体制を構築しよう！

二、原職奪還、組織強化に向け、支部結成の方向で協議会の強化をかちとる。

- 具体的には、
- ①月一回以上の代表者会議の開催と、交流オルグの開催。
 - ②当局の攻撃には地区協議会あげて闘う。
 - ③アンケートを全員に配付し、諸要求をまとめ当局にぶつけていく。
 - 三、十・二三三里塚、十一・三団結祭典に全力動員で参加する。
 - 四、天皇Xデー、大反動キャンペーンを許さない。